



〒028-5133

岩手県二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33

電話:0195-35-2231 FAX:0195-35-2781 <三愛学舎ホームページ <http://www.sanaigakusha.net>>

再び「楽しい学校へ」

岩手県下に一校しかない私立の特別支援学校「三愛学舎」！

特色ある教育を目指して取り組んできた「三愛学舎」！

世の中の事情が様々と変化している中で、変えるべきことは変えてきた。しかし創設時の基本理念は不変だ。

「生徒、教師が共に生き方を考え、学び合う」学舎（まなびや）。

「生徒個々の個性、ニーズに応じた教育を行なう」学舎（まなびや）。

「青年期の調和的な成長を図る」学舎（まなびや）。

この40年間、このような教育を行なってきただろうか？ 解体されていく旧校舎に問いかけてみた。無言である。しかし、かすかに笑顔が感じられた。

2010年ごろから、新校舎建築に向けて話し合いを積み重ねてきた。

「コンセプト」は『生きる喜びを学ぶ校舎』である。

ついに、新校舎が完成した。生徒たちの生き活きとした姿が玄関をくぐる。

生きる喜びのある「学び」って何だ？

それは、新しい「事」や「物」に気づくこと？

それは、「おもしろさ」に気づくこと？

それは、自分の「力量」に気づくこと？

それは、仲間と共に笑っている自分に気づくこと？

まだまだ、たくさんあるだろう。

とにかく「楽しい」ことがいっぱいあることが一番である。

それらがすべて「生きる力」に変わっていくのかもしれない。

建物は、そこで学びあう一人一人の心を豊かにしてくれる。

新校舎は一人一人を深く抱きかかえるようにやさしい。これがいいんだ。



(学校法人 理事長 澤谷常清)

広報誌第7号は、三愛学舎新校舎特集として建築に携わった方々、教職員、生徒の声を紹介します。

新校舎での活動の様子



学級目標張り替え



調理

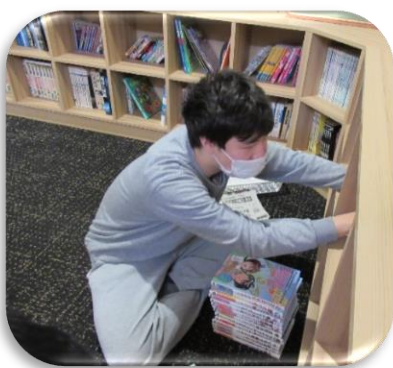


書



薪ストーブを囲んで

お気に入りの場所で



学び合い



掃除



作業科製品販売会

語り継がれること

三愛学舎 校長 伊藤和彦



9月6日の朝礼で、生徒を前に、「多くの方々にご支援を頂き、新校舎ができました。私たちに期待されていることは、この校舎で精いっぱい学ぶこと。これからも、感謝しつつ、互いに学び合いましょう。」と話しました。先輩の姿に学び、後輩の手本となること。三愛学舎が大切にしてきた学びの姿が、これからも続いていくようにと願いを込めました。

10月25日、朝の冷え込みが少し厳しくなってきました。現在、新校舎と専攻科棟の渡り廊下が工事中です。専攻科の生徒に「(工事中の)教室の両端から風が入ってきてすごく寒いです。」と話され、本当に不便をかけているなど痛感しました。まだまだ教育環境整備は道の途中、しっかりと事業が進められるよう努めたいと思いました。旧校舎の解体工事は開始から1か月が経過しています。建造物がほぼ撤去され、基礎部分の掘削が始まったようです。朝夕、進む工事にも寂しさが増しています。

11月17日、新築から43年の歳月、生徒の学びを支え続けてきた旧校舎から新校舎への2か月ほどの引継ぎが無事に終了しました。私自身も30年間お世話になった校舎でしたから、この2か月間は特別な感慨がありました。長廊下で、生徒と一列に布巾を並べ、号令を掛けながらのワックスがけ、中山の園から学園の道を廻るランニングで汗を流したこと。今も活気のある声が聞こえるような気がします。



旧校舎長廊下

三愛学舎新校舎建築事業募金 ～感謝とご報告～

2020年10月よりお願いしてきました「三愛学舎新校舎建築事業募金」が、2022年12月末で約1000万円集まりました。多くの皆さまから多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。募金の使い道につきましては、新校舎建築工事費の一部として使用させていただきました。

2022年12月には、旧校舎の解体が完了し、新校舎と専攻科棟を繋ぐ渡り廊下が完成しました。落成式につきましては、来年度春季を予定しております。

校舎の完成で募金活動も大きな節目となりましたが、引き続き、専攻科棟の新築などで資金が必要です。今後ともご協力よろしくお願いたします。詳細は、三愛学舎ホームページ⇒三愛学舎新校舎建築事業⇒募集要項を参照ください。

“つなぐ” 校舎

三愛学舎 事務長 箱崎浩二

2022年7月29日、ついに新校舎が完成しました。2013年3月に新校舎建築のプロジェクトが始動して約10年になります。ずっとこの日が来ることを待ち望んでやってきました。私としてはかなりの労力と時間と情熱をこの事業に注いできたので、「完成した時には感動して泣くかもしれない。」そう思っていました。しかし、いざ完成してみると思いのほか何の感情も湧き上がってきません。目の前の“現実”に感情が追いついてこないのです。

この10年間、「よくもまあ次から次にいろんなことが起きるな。」というくらいたいへんなことの連続でした。設計士さんと「まるでプロジェクトXだね。」なんて冗談を言えているうちはまだマシで、「もうダメかも」と思ったことも1度や2度ではありませんでした。

「今度の広報誌に建築のプロセスについて箱崎さんの想いを書いてください。」という依頼でしたが、私がこの10年間で冷静に振り返るにはもうちょっと時間がかかりそうです。

9月から新しい木の香りのする校舎での生活が始まりました。けれども私の気持ちは日々解体が進んでいくかつての校舎の方にありました。開校以来470名を超える方が学んだこの校舎が解体されていく様子を彼らが見たらどう感じるのだろうか。もしかしたら青春の思い出が奪われていくように感じる方もいるのではないかと私は申し訳なく思っていました。



そんなある日、新校舎の見学に来た卒業生のOさんが旧校舎の解体現場を自分のスマホで撮っていました。「やはりOさんも自分が学んだ校舎が無くなるのが寂しいのか？」と思い、撮った写真を見せてもらいました。写っていたのは解体の重機！（笑）

Oさんのおかげで私の心は少し楽になりました。

ところで、福祉の業界では“共生”という言葉がよく使われます。三愛学舎でも「共に生き、共に学ぶ」という表現をよく目にし、耳にします。本校で「共」は「生徒と教職員が」という文脈で使われることが多いようです。私は、これからの時代は「人間以外の生命も含めて共に」という感覚を持つことが重要になってくると感じています。“ただそこに在るのを眺めているだけの自然”ではなく、自分たちの生活をより豊かにするために自然を利用させていただき、かつそれが持続可能となるように守っていく。そのことを通して人同士が繋がっていくというのが、本校の「共生」だと私は考えています。三愛学舎がこの場所に存在する意味がここに 있습니다。生徒及び教職員がこのような価値観をもって社会に出ていけば、世の中は少し良くなっていくと信じています。そのために校舎が自然と人間を分断するのではなく、両者を“つなぐ”中心にしていきたいと思っています。

以前とは比較にならないほど大きくなった校舎内の空間に初めは戸惑いを見せていた生徒たちも徐々に慣れてきて、自然な笑顔が見られるようになりました。これからこの新しい校舎で三愛学舎の新しい歴史を作っていくことでしょう。

新校舎竣工に際し

(株)高光建設 代表取締役 佐藤万寿美

この度は、新校舎竣工おめでとうございます。

私共施工会社と致しましては、光栄にも三愛学舎様新校舎の建築工事に携わることができ、そのご縁に心より感謝申し上げます。令和3年7月に新校舎予定地でのキリスト教による起工式に出席させて頂いた際に、初めて『三愛学舎』の語源が『神を愛し、人を愛し、土を



愛す』という言葉に由来するということを知り大変感銘を受けました。そしてこのキリスト教三愛精神がまさに教育の軸となって学びの人々を支えていることが大変素晴らしいことと感じました。

私共は、この新校舎建設に対する関係者皆様の沢山の祈りと想いを糧にして、お陰様で最後まで安全に無事故で完成することができましたことを改めてご報告すると共に、工事期間中の皆様のご協力に大変感謝申し上げます。建物が無事に完成致しましたが、この建物が生かされていくのは全てこれからであると思っております。この新校舎とともに今後皆様が生き生きと活動され、これから先、たくさんの思い出と更なる歴史を刻まれて行かれることと存じますが、どうかこの新校舎が末永く皆様のお役に立てることを切に望んでお祝いの言葉とさせていただきます。

三愛学舎新校舎の設計について

株式会社 中居都市建築設計 中居真一

三愛学舎の皆さん、この度は新校舎の完成、誠にありがとうございます。どんな計画の際にも思う事ですが、建築というのは本当に一筋縄ではいかず、越えなければならない山がいくつも現れてきます。その課題を共に乗り越えてきた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。この稿では新校舎の設計にあたり考えた事について記します。



以前より「学校建築ってどうしてこんなに閉鎖的なんだろう」、という思いがありました。長い廊下に延々と教室が並ぶコンクリートの寒々しい校舎、そんなイメージです。新校舎では、奥中山の自然環境の恵みを享受し、その中で生徒職員の活発なコミュニケーションが図られる温もりのある校舎を創る、という事をコンセプトに設計を進めました。

玄関を入ると「三愛ギャラリー」が来校者を迎えます。新校舎は木造を選択しましたが、木造の架構が連続し空間を支えている姿が見えます。木組は人間同士の協力という事を象徴的に現してい

ます。高窓からの光や風が通り抜ける空間で、作業を行ったり、作品を展示したり、談話をしたりと、校風を活かした特色ある場にして頂きたいと思います。

工夫の一つとして、学年毎の教室間に光や風を校内に導く隙間の空間（デイコーナー）を設けた事があります。壁面を連続させず圧迫感も軽減し、校庭から見ると大小の積木を重ねた様な面白さも生まれました。奥中山は盛夏や真冬でなければ、非常に気持ちの良い環境の地です。自然の通風や採光を活かし、しっかりとした断熱を施し、機械設備力に頼らない環境共生型の建築とする事も心掛けました。

設計の際は、先生方とのワークショップを重ね現在のプランに辿り着きました。お忙しい業務の中、沢山の貴重なご意見をありがとうございます。新校舎はこの度落成の運びとなりましたが、時代と共に変化していく事もあると思います。今後も課題に応じてご相談頂ければ幸いです。三愛学舎の素晴らしい未来をご祈念いたします。

たくさんの想いが形になった新校舎

株式会社植杉コンサルティング 代表取締役 植杉嘉明

三愛学舎新校舎完成おめでとうございます。

初めて打合せに出席させていただいたのが 2017 年 9 月と新校舎完成の約 5 年前です。建築コンサルタントの役割は建築事業に関する「マネジメント」です。常に学校側の目線で適切なアドバイスを実施していくのが私の役割でした。

三愛学舎の旧校舎は 1980 年に建設され各所老朽化の課題と創設当時の定員生徒数を想定した広さ故、現在の生徒数では手狭な環境の課題を抱えていました。手狭感を抱える校舎において新校舎への建替えが教育環境改善の最良の選択肢でありました。

新校舎を計画した時期は 2011 年頃の建設費と比べおよそ 1.25 倍建設費が高騰している状態でした。生徒数の少ない私立特別支援学校では一人一人に負担を強いることが出来ず、国や県などの補助制度を活用するしかありませんでした。そのため、新校舎の検討と同時に老朽改築工事業の国庫補助申請に向けていくつもの課題に取り組みました。そして 2020 年度に耐力度調査の実施を設定し建設スケジュールが確定したのが 2018 年 1 月の事でした。



図書コーナー



中居都市建築設計、中居さんの巧みな設計において教職員とのワークショップを重ね各所に要望を取り入れ、そして、高光建設さんの手により新校舎が建設され完成しました。これまでの道のり、三愛学舎では箱崎事務長が建設に向けてのリーダーシップを発揮いただき、その努力の賜物がこの新校舎に表れています。

この建設事業に携わらせていただき、ありがとうございました。

旧校舎への感謝と新校舎への期待 ～生徒の声～

『感謝の言葉と新しい未来の扉』

専攻科1年生 柴内律知

旧校舎での思い出は、生徒会執行部の活動です。執行部のきっかけは、仲間とのコミュニケーションや明るく充実した学校生活を送り更なる成長につなげていきたいと思いました。特に生徒会新聞で文章を考えることが難しかったけど、言葉を自分で整理し2年間取り組むことができました。旧校舎で過ごした日々はとてもあたたかく感じました。この校舎を絶対に忘れません。40年間ありがとうございました。

これからも充実した学校生活を送っていき、皆さんと前に進みながら思い出を残してほしいと思います。



感謝の気持ちを校舎に記しました

壊されるとなると、歴史がなくなるみたいで、さみしくなりました。でも、新しい校舎でも、色々と勉強とか作業とか休み時間とかを大切にしていきたいです。

初めて来た時には、昔の時代に行ったみたいな学校だと思いました。放送・宗教委員会や礼拝のページを読んだりしたことが楽しかったです。新しい校舎でも楽しい思い出を作りたいです。

旧校舎最後に集合写真を撮りました。講堂で体育の時に風船バレーをしたことや談話コーナーにみんなで寄せ書きを書いていたのを見たのが思い出です。新しい校舎はきれいだなあとと思いました。

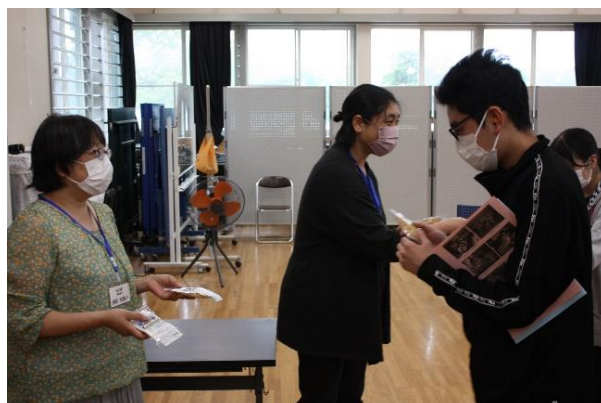
古い校舎で先輩と話をしたのが楽しかったです。新しい校舎でもみんなで鬼ごっこをしたり、楽しくしたいです。

古い学校の講堂で、芸術の時に紙飛行機を作って、新しい学校の講堂で、みんなで飛ばしました。よく飛んで面白かったです。思い出です。

新しい校舎が好きです。
とにかく好きです。



校舎感謝会



7月15日（金）、これまで42年間お世話になった校舎への感謝会が行われました。旧校舎の思い出をビデオ上映し、生徒からは感謝の気持ちをこめて合唱し、PTAからは生徒一人ひとりに記念品が手渡されました。

みずほ教育福祉財団贈呈式

9月27日（火）、「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が本校で行われました。

同財団の上田靖常務理事が来校され、本科3年生の立花春樹さんが代表として目録をいただきました。今年度の助成金ではパソコン5台を購入し、学習活動に活用させていただいております。これまで、ピアノ、ハンドベルなどの楽器や除雪機などの環境整備のための機器備品を様々活用させていただいております。長年にわたり、あたたかいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。



2023年1月14日（土）、新校舎講堂にて『20歳を祝う会』が開催されました。専攻科2年生は晴れ姿になり、これまで支えてくれた方々への感謝、今後の誓いの言葉を立派に読み上げました。20歳おめでとうございます！

編集後記

この間、約2年間、広報誌やカナンの園機関誌で新校舎建築の様子をお伝えしてきました。

これまで新校舎の建築に関わって下さいました全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに過ごして参ります。新校舎が完成し更にパワーアップした本校で生まれる新たな学びと活躍にご期待ください。これからも三愛学舎をよろしく願います。（副校長 岩崎）